

第2回 安中市都市計画マスタープラン策定委員会  
第1回 安中市立地適正化計画 策定委員会 議事概要

■日時及び場所

日時：令和6年2月5日（月）14:00～16:00

場所：安中市役所 旧庁舎3階 303会議室

■出席者

区分	出欠	所属等	氏名(敬称略)	備考
委員長	○	高崎経済大学地域政策学部	長野 博一	
委員	○	一般社団法人群馬建築士会安中支部代表	三好 建正	議事録署名人
委員	○	一般社団法人群馬県宅地建物取引業協会 安中支部代表	武井 正臣	
委員	○	一般社団法人安中市医師会代表	本多 真	
委員	○	一般社団法人安中市観光機構代表	武井 宏	議事録署名人
委員	×	碓氷川森林組合代表	上原 又樹	
委員	○	安中市商工会代表	静 朋人	
委員	○	安中市松井田商工会代表	吉田 利博	
委員	○	安中市区長会代表（旧安中）	森 明男	
委員	×	安中市区長会代表（旧松井田）	佐藤 金光	
委員	○	東日本旅客鉄道株式会社高崎支社代表	近藤 隆俊	
委員	○	一般社団法人群馬県バス協会代表	佐藤 俊也	
委員	○	一般社団法人群馬県タクシー協会代表	清水 憲明	
委員	×	ぐんま地域防災アドバイザー	金井 弘恵	
委員	○	安中市民生委員児童委員協議会代表	佐藤 徹也	
委員	○	安中市景観審議会代表	杉浦 榮	
委員	○	安中市文化財保護審議会代表	中島 啓治	
委員	○	安中市農業委員会代表	山田 茂	
委員	×	国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所計画課長	堀井 智典	
委員	○	群馬県県土整備部都市計画課長	剣持 康彦	
委員	○	群馬県県土整備部安中土木事務所次長	岸 正幸	
事務局	○	まちづくり部	都市計画課	
NKUS	○	都市再生部	都市交通課	

## ■次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議事録署名人指名
4. 議題
  - (1) 安中市都市計画マスタープラン
    - ・課題と現状分析について
    - ・方向性、将来像、将来都市構造、分野別基本方針について
  - (2) 安中市立地適正化計画
    - ・概要と目的について
    - ・課題と現状分析について
5. その他
6. 閉会

## ■配布資料

- 座席表、次第、委員名簿
  - (1) 安中市都市計画マスタープラン
    - 資料1\_都市計画マスタープラン会議資料
    - 参考資料1\_社会動態・背景について
    - 参考資料2\_上位関連計画
    - 参考資料3\_現状分析
    - 参考資料4\_現行計画とヒアリングシート
    - 参考資料5\_アンケート結果の整理
    - 参考資料6-1\_地区別懇談会結果（模造紙）
    - 参考資料6-2\_地区別懇談会結果（文章）
  - (2) 安中市立地適正化計画
    - 資料1\_立地適正化計画会議資料
    - 参考資料1\_都市構造上の課題参考図面
    - 参考資料2\_都市構造評価補足資料

## 1. 開会

## 2. 委員長挨拶

## 3. 議事録署名人指名

- ・三好 建正 委員
- ・武井 宏 委員

## 4. 議題

### (1) 安中市都市計画マスタープラン

#### ・課題と現状分析について

(委員)

- ・第3次安中市総合計画は令和6年3月に策定予定となっているが、整合はとれているのか。

(委員長)

- ・私は第3次安中市総合計画の協議会のメンバーでもあるため、整合をとりながら内容を決める。

(委員)

- ・コンパクト+ネットワークやウォークアブルとあるが、安中市では具体的にどのようなまちを目指すのか。

(委員長)

- ・一般的にコンパクト+ネットワークとは、歩いていける500mほどに生活に必要な施設がそろっており、生活が完結するまちを指す。安中市で施設を集める距離を何mとするかは今後検討する。

#### ・方向性、将来像、将来都市構造、分野別基本方針について

(事務局)

- ・資料p6の凡例「山林環境エリア」を「山林自然環境エリア」に修正する。

(委員)

- ・西松井田駅南側は数十年前に土地改良を行ったが、現在は耕作放棄地等で荒れている。今後どのような整備を行う予定か。

(事務局)

- ・西松井田駅北側が第1種低層住居専用地域となっているため北側の開発が優先される。

(委員)

- ・「誰もが安全で安心」とあるため、バリアフリーよりユニバーサルデザインの方が重要ではないか。

(委員長)

- ・今年度中にバリアフリー構想を策定予定であり、整合を図るため「バリアフリー」という文言

を使用している。

(事務局)

- ・「ユニバーサルデザイン」という文言の追加も検討する。

(委員)

- ・国道 18 号に位置付けている都市軸に関して、再考が必要ではないか。国道 18 号は安中市のまちなかを通る広域幹線道路であり、高崎や長野方面への都市間交通と都市内交通が混在している状況にある。道路の段階構成と配置の考え方からすると、本来適切ではない。例えば、都市軸に並行して、都市内交通を捌く東西方向の地域軸が必要なのでは。

(事務局)

- ・都市構造図の軸はひとつの道路を指しているのではない。現在国道 18 号のバイパスの整備を検討中であるが、構想として書き込める段階ではないため、引き続き検討を進める。

## (2) 安中市立地適正化計画

### ・概要と目的について

(委員)

- ・高崎や富岡等の周辺地域と比較して、安中市の強みは何か。その強みを計画に活かしていくつもりか。

(事務局)

- ・富岡市は安中市と比較し、コンパクトな市街地が形成している。安中市は東西に長く、面積が大きい。中山道沿いに市街地が立地しており、西側は谷地に集落が形成している。
- ・地域ごとに地形等が異なり、個性があることを活かしてまちづくりを進めていけば、住みやすく観光にも強いまちになると考えている。

(委員)

- ・現在の安中市の現状ではコンパクトなまちづくりを進めるのは大変だが、地域の課題を強みに変えてまちづくりを進めてほしい。

### ・課題と現状分析について

(委員)

- ・立地適正化計画とは、駅周辺に施設を集約させるイメージがあるが、現状の安中市は安中榛名駅や市西側の駅周辺は高齢化が進んでいる。この状況について考えはあるか。

(事務局)

- ・現在、地域公共交通計画の策定も進めており、安中市の公共交通の全面的な見直しを行う予定である。今後施設を計画するときは駅周辺に集約し、それらを公共交通でつないでいく。

(委員)

- ・今後、施設を JR 信越本線よりに誘導するのか、現状と同様に国道 18 号沿いに集約するのか、どちらの考えになるか。

(事務局)

- ・地域公共交通計画では、魚の骨の形のようにバス路線で国道18号と郊外をつなぐ計画としている。鉄道は地域間の移動の他、安中市では賄えない劇場等のため高崎市や富岡市への広域移動を想定している。

(委員長)

- ・JR信越本線周辺に施設を誘導すれば、車の利用を減らし、ウォークアブルなまちづくりに繋がる。一方で、国道沿いに集約すれば、ある程度の車の利用を許容することになる。

(委員)

- ・安中市はいくつかの地域が合併した地域のため、市街地が分散している。他地域と同様な計画で整備を行うことは困難なため、市民と話し合った上で妥協点を見つけ、長期的な視点で整備を進めていくことが大切となる。

(委員長)

- ・短期的な視点と長期的な視点、両方から整備を進めていくことが大切となる。例えば、高校生が通学するためのバス等は残さなければいけない。そのため、今後現状の分析をさらに進めていき、方向性を決める必要がある。

(委員)

- ・長期的に整備を進めることとなると、市の体制が途中で変わり、方向性が変わってしまう可能性があるが、対策等あるか。

(委員長)

- ・計画を策定するにあたり、都市計画審議会で必ず確認をとる。そのため、データがある限り、方向性が大きく変化することはない。

## 5. その他

なし

## 6. 閉会